

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム いなほ	評価実施年月日	平成20年4月1日
評価実施構成員氏名	高橋 芳美 ・ 高橋 千加 ・ 三浦 一美 ・ 赤田 三佳		
記録者氏名	高橋 芳美	記録年月日	平成20年4月5日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	当事業所では『人を人として人らしく』を基本に、介護理念および介護方針を設けている	○	職員の総合的理解に取り組んでいる
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関ホールに、介護理念および介護方針を掲げ、日々取り組んでいる	○	定期的にケアカンファレンスを開き、再確認および理解を深める取り組みを行っている
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	当事業所の前で、家族・地域の皆さん・他施設の皆さんおよび福祉関係の方々と一緒にお祭りを開催し、理解を深めていただいている	○	今後は多彩な行事に取り組みたい
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	現在は、気軽に声を掛け合ったり、近所の家にお邪魔する事はあるが、立ち寄ってもらえる事は数少ない	○	お祭り以外にも交流会などを開催していきたい
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域活動の参加は無いが、地元の人々との交流はある	○	今後地域活動への参加をしたい
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症100万人キャラバンのサポーターに全職員が受講し地域貢献に取り組んでいる 認知症100万人キャラバンのサポーター養成の事業、地域の方への介護教室、ヘルパー養成講座の講師、他事業所の職員教育等を行っている	○	今後も地域の介護力のスキルアップに努めていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善すべき点はすぐに改善し実施する体制にある	○	自己評価および外部評価の問題点を職員一同理解し足並みをそろえて実行していく
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現行運営推進会議は無いが、今春中の開催を目指し活動中である 運営推進会議を開催後は意見をサービス向上に活かしていく	○	今春中に運営推進会議開催のため精進する
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	認知症キャラバンメイトの会・介護サービス連絡協議会の役員をしている 上記の会議およびケアマネ連絡会等にも参加している また、様々な場面で担当者と合いサービスの質の向上に努めている	○	今後も継続していく
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	家族とも相談の上活用している	○	今後も職員に研修会を続けていく
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	当事業所では介護方針の中に様々な抑制に当たる行為の撤廃をうたい実行している 道および市で主催する研修会に参加している 当事業所独自の研修会も開催している	○	言葉・身体等にとどまらず、自分が言われたりされたりしたら嫌なことは虐待と考え、そのような事が無いようにしている
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明と同意は必ず行っている 家族等には解りやすく丁寧に説明をし、疑問点やわからないことが無いかな必ず確認している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情の通知方法および処理方法は玄関ホールに掲げている 苦情等があった場合は緊急にケースカンファレンスを開催し、即時の改善ならびに再発防止に努められる体制になっている</p>	○	<p>今後も継続していく</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>暮らしぶりは、いきいき通信や状況報告書に記載 健康状態は、状況報告書に記載 金銭管理は、預かり金収支明細書にて報告(上記は毎月末に作成し郵送しているが、面会時にも必ず報告をする) 職員の異動は、玄関ホールに掲示</p>	○	<p>今後も継続し、家族にも安心感を持ってもらう</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情等の相談窓口を設けている 面会時には、しつこいほど『何かないですか』『何かないですか』とたずねている</p>	○	<p>今後も面会時や必要に応じた時に対応していく</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的カンファレンスを開催し、管理者と職員の意見を交換し反映している</p>	○	<p>今後も様々な場面で意見交換をし反映していく</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>必要に応じて勤務の調整を行っている</p>	○	<p>今後も出来る限り利用者・家族に満足していただける対応をしていく</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の異動に関しては、職員の持っているの応力および入居者に与える影響等を考慮の上慎重に行っている 入居者の意見や職員の意思も尊重している</p>	○	<p>今後も利用者本位に考え、適材適所の移動を行う</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>職員の能力に応じた研修および職員が望む研修には随時参加してもらっている</p>	○	今後も職員が希望する研修への参加実施をしていく
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>職員の交換研修の申し入れを他の施設にお願いしているが良い返答はもらえていない 交流会があれば参加している 運営者はグループホーム協議会の役員である お祭りを開催しネットワークづくりを行っている</p>	○	今後はさらに関連する他業者との交流にも取り組みたい
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員本人および家族の誕生日の有給休暇化を行っている 相談事がある場合はいつでも相談に乗る体制を整えている 日常的に声掛けを行っている</p>	○	今後も継続していく
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>定期的に、研修会やカンファレンスを開催し向上をはかっている</p>	○	今後も継続していく
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>必ず利用者本人と対話できる時間をもち、会話の中から及び言葉に出来ない思いも察知し受け止める努力をしている</p>	○	より深い信頼関係を築けるように努力をしていく
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>利用者の事だけではなく家族の不安や困った事を話の内容のなかで把握し負担にならないような対応している</p>	○	家族の負担軽減につながるアドバイスや対応・対処を行い信頼関係を深めたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族を含め、言葉にできる事も言葉にできない事も含め洞察力を持ちニーズの洗い出しに努め必要なサービスの提供をしている ケアプラン策定に先立ち観察期間を2週間設け、ニーズの確認とニーズの発見を行っている	○	今後も本人・家族の希望、またそれに沿ったサービスを見極めを行い提供している
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人も安心して、家族も納得のできるように多方面から見だし、他の利用者にもかわりを持ってもらうなど馴染みやすい環境を作りサービスを行っている 体験入居もやっている	○	今後も継続していく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者ができる事を教えてもらったり、本人がしたいことをしてもらったりしている 本人が行きたい所には同行している ライフパートナーの考え方を基本としている	○	今後の継続と新しい事の発見に努める
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	四季折々の行事や誕生会など、家族の時間が許す限りの範囲で共に利用者を支えている 当事業所は、家族の宿泊は随時行える	○	誕生会やレク、お祭りを利用し参加していただき、職員・家族・利用者が一体となれる関係創りを行っている
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	お祭りや誕生会には必ず家族の参加をしていただき、家族と一緒に過ごす時間を作っている	○	今後も家族と連絡を取り合い、より良い方向に持っていく
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	支援できる体制にある	○	馴染みの方へのお祭りの参加を呼びかけている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士のコミュニケーションがよく取れていて、自然に自分たちの発想でレクをはじめたり、食べたい物を話したりしています	○	今後も会話についていけない利用者のフォローに努める
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	定期的に連絡を取っている お祭り等の行事の案内を出し参加していただいている	○	今後も継続していく
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人一人のライフスタイルを大切に、決して押し付けでない対応をしている	○	本人の希望に沿った生き方の継続
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や知人等からの情報を細かく分類し、入居時の情報提供とし個々のファイルにつづり職員は把握して日々のケアに活用している	○	認知症の進行の伴い、趣味・思考・嗜好が変化するので、そのときの把握にも努める
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	全職員が、利用者のその時その時の状況の把握に努め共有している	○	家族や医師とも連携をとり、その人の持つ力を見極め健康的に暮らせるように支援していく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				○
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族が望んでいる事・本人が希望している事を念頭に計画を作成している 職員が担当の利用者を持ち短期の目標を設定し、ケアカンファレンスおよびミニカンファレンスで検討し実施している	○	今後も継続していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	一定の期間だけではなく必要に応じ作成を行っている 細かい変更については、変更用紙を活用している	○	特に身体的変化の大きな場合は医師・看護師の指示を仰ぎより適切な計画を作成していく
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に記入し共有している 家族へは、『状況報告書』にて利用者の様子やケアの実践・結果・気づきを報告しています	○	今後も洞察力を持って取り組んでいく
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	小規模の特性を活かした対応心掛けている	○	家族が利用者にしてほしいと考えていることの実践の継続
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	市のレクリエーション指導者の来所、エレクトーンのボランティア訪問、盲導犬チャリティーの見学等している	○	更に交流を深めていきたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域ケア会議の部会に毎月出席し地域のケアマネよ情報交換し日々の介護に活かしている	○	今後イン・フォーマルなサービスの利用を広げていきたい
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	日常的に出向き多面で情報収集を行っている	○	今後は介護予防の観点を視野に入れディサービスにも取り組んでいきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員として看護師を採用しており、日常の健康管理や医療活用の支援を受けている	○	今後も定期的な勉強会の機会を作って職員の知識の向上を図りたい
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携医のみならず、脳外・精神科等状況により受診している	○	利用者の状態の変化を見過ごすことなく相談できる関係が出来ている
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員として看護師を採用している 協力医の往診は昼夜を問わずに行ってくれる	○	今後も協力医と連携し看護師の指導のもと利用者に支援していく
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入退院時の説明には家族の了解を得て同席させていただき、早期退院へ向けての情報の提供の環境づくりの支援を行っている	○	今後も早期退院が出来るように支援していく
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	協力医は利用者の状況の変化に応じ、職員も同席の下ムンテラを行ってくれるまた、ムンテラの内容を職員も共有している	○	今まで同様に家族や協力医と話し合い職員全員で支援していきたい
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	常時協力医療機関の医師・看護師と当事業所の看護師との連携が取れる体制である	○	今後も、早期の段階から検討や準備を行いその人らしい終末期を迎える事が出来るようにチームとして支援していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族と話し合い、よりダメージの少ない対応に心掛けている	○	今後も住み替え後、必要に応じ家族や利用者に支援をしていく
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	守秘義務の徹底をおこなっている	○	今後も継続する
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人に理解していただくのは当然のこと	○	今後も状況・状態に応じた対応をもって支援していく
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に利用者に適しているライフスタイルの継続を支援している	○	今後も、『その人らしい生き方』を支援していく
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	馴染みの店や希望する店がある利用者はそちらに行っています 希望がない利用者は、2月に1回みえる美容師に本人が望むようなヘアスタイルにしてもらっている 化粧は自由である	○	今後もその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援していく
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の状態や力に応じできる事を日々の中で無理のないようにおこなってもらっています	○	今後も、その人にあつた準備や片付けを一緒に行ます、

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の飲みたい物食べたい物の希望を叶えながら対応している	○	利用者の意に沿った支援を今後もつづけていく
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄パターンを把握し、ポータブルの使用や尿取りパッドを使用し対応している	○	今後も、その人に合った排泄パターンで支援していく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入りたい日入りたい時に入浴していただいている	○	今後も、入りたい時に入浴していただく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の状況や気分に応じて、居間で昼寝をする人がいたり、長いすで居眠りする人がいたり利用者の自由にしている	○	今後も、継続していく
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の自分がしたい事が役割になっています 気晴らしに個別の買い物や個別のドライブや個別の夕食を行っています	○	今後も、継続していく
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者は自分で入居時より小遣いを持っている 事業所の買い物の時や個別の買い物の時に使っている 小遣いを使っちゃった場合は、預かり金より補充している	○	今後も、本人の希望を重視し、職員が同行して買い物を行う
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望に沿って個別の買い物や散歩、ドライブなどを行っている	○	今後も、継続していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別の外出に同行している（買い物・ドライブ・夕食） 様々な行事で出かけている 家族が迎えに来て外泊・外出をしたりしている	○	今後は、温泉などにも一緒に行き楽しんでもらいたい
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙や電話・面会等が自由に出来る	○	今後も、継続する
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	当事業所のもつとは、『家族にとっては実家』なので、気軽に来て頂けるよう支援している	○	今後も継続する
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	どんな状態や状況であれ、身体拘束は行わない介護をしている	○	これからも身体拘束の無いケアを実践していく
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	開設当初より夜間以外は施錠していない	○	今後も、継続する
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	いつ、どんな時でも利用者の行動、所在を把握し安全に過ごせるように努めている	○	今後も、継続する
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況や状態に応じて保管・管理を任せている	○	今後も、ライフスタイルが守られ元気に過ごせるように支援していく また、こちらで勝手に『危険な物』とせずに、利用者本人のライフスタイルや能力を考慮の上判断する事が大切である

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	昼夜を問わず物音ひとつにも気をつけ常に利用者の行動を把握している	○	一人一人に合った事故防止に取り組んでいる 転倒、誤飲のないように細心の注意を払っている
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	講習会および研修会を開催している 職員は全て普通救命講習を受けている	○	協力医や看護師から指導を受けている 救急救命士より講習を受けている
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難方法については、消防で避難訓練を行った時に指導を受けている 災害発生時には、地元の協力を得る事と共に、地域の消防団員の協力も得られる事になっている	○	今後も、避難の方法および消火の方法の訓練を行う
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	いつ、どんなときでも、何が起きてもおかしくない状態であることは家族にも話をしそ の上で納得していただき、対応策を話し合っている	○	そのような事が起きないように日々利用者の心身の状況の確認と、事故につながらない環境の提供に心掛けている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	当然の事であり、日々洞察力を持って利用者の心身の状況変化を早期発見できるようにしている 介護の基本は、『観る事』と考え対応している	○	状況の変化があった場合速やかに協力医や看護師に連絡している
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が理解出来るよう指導されている 職員がいつでも見れるようにビルブックを常備している 日常的变化の報告は当然のこと、臨時薬が処方された場合は特に服薬中の様子を報告している	○	利用者がどんな薬を服用しているか全職員が把握している
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	乳製品・繊維質を多く含んだ食材などを食事やおやつに取り入れたり、散歩や遊び りテーションの中で体を動かし便秘予防につなげている 生活リズムを整える活動も行っている	○	利用者が行える事は見守りの中で行い、道具を利用しながらのレクや体操 およびリハビリを行っている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨き、口ゆすぎ、ハミングッドの使用などで支援している 義歯がある利用者には、10日に1度のポリデントの実施 義歯の夜間預かりを行っている	○	食後の口腔ケアの徹底やうがい・歯磨きをしている
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	調理は、利用者の食べたい物を基本としているが、量や栄養バランスに注意している 水分は、食事の時やおやつ時の水分摂取以外にもお茶・コーヒーなど水分摂取になるように決められた時間以外でも支援している 利用者の状況を勘案の上、水分の摂取目標量を設定している	○	利用者の状態に応じ栄養、バランス等を考え支援している 必要に応じ医師や看護師からの指導を受けている
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し掲げ、職員は実行している インフルエンザの予防接種は、利用者職員共に全員うけている	○	研修会・講習会への参加をし職員一人一人が感染症に対する予防や対応を習得している
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	日々の消毒の徹底や衛生管理を行っている	○	冷蔵庫・調理用具の衛生の徹底と、新鮮で安全な食材の購入及び調理、賞味期限・消費期限の日々の確認を行っている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	駐車場や玄関前は、広く確保されている	○	今まで以上に近所の方々にとっても『和める空間の提供』を行っていく
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一般家庭にいる気持ちになれる環境の提供を行っている 不快な音や光に対しては、取り除く対応をしている 季節を感じる飾り付け等を行っているが、それ以上に農村地区ならではの季節の移り変わりを感じられる眺望がある	○	今後も引き続き今まで行ってきていることを継続していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自然に座る所が決まり、思い思いの合った仲間同士が話したり、長いすで昼寝をしたりしている	○	今後も、領域を侵さない対応をしていく
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に、入居前に本人が使用していた寝具・食器・家具などを持参していただき、心地よく過ごせる工夫をしている	○	今後も、使い慣れた物馴染みの物に囲まれて生活をしてもらう
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	気になる臭いや空気よどみ解消のため換気を行っている 温度の調節は、利用者にとって生活しやすい温度の確保に努めているが、外気温との差には考慮していない	○	今後も、継続して行う
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	手すりの設置なども考え自力歩行が行えるようにしている 歩行が悪い利用者には見守りの徹底をしている	○	今後も見守りの徹底を行い、自立した生活を送れるように支援していく
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人一人の出来る事と出来ない事、出来るかもしれない事を把握し、日々の生活の中で楽しみや役割を持ってもらい、『生きる活力』につなげ生活していただいている	○	今後も見守り、声かけを行い支援をしていく
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇・家庭菜園・物干し・ベンチやテーブルを設置している 屋外でのおやつ・花火・炭焼きパーティー等も行っている	○	今後も、継続していく

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

『その人らしく生きてもらってはじめてその人の人生である』をもとに、サービスの提供を行っている
利用者が毎日を楽しみ過ごし、束縛の無い生活を送り、夏場は花畑や畑を楽しみ日々の充実につなげている